

♡ NICONICO ペアトレ ♡ 第2回

「子どもの行動観察と3つのタイプ分け」



ホームワークはいかがでしたか？

「いっぱい褒めようシート」へのチャレンジはいかがでしたか？

グループで感想を聞き合ってみましょう。

- ・ 具体的な一場面について教えてください
- ・ 相手の反応、気付いたことなど



本日の予定

- 講義「子どもの行動を観察して3つに分けよう」
子どもの良いところ探し 1週間
- 演習「褒め上手になろう」
ホームワークの感想、ロールプレイ

講義

「子どもの行動を観察して3つに分けよう」



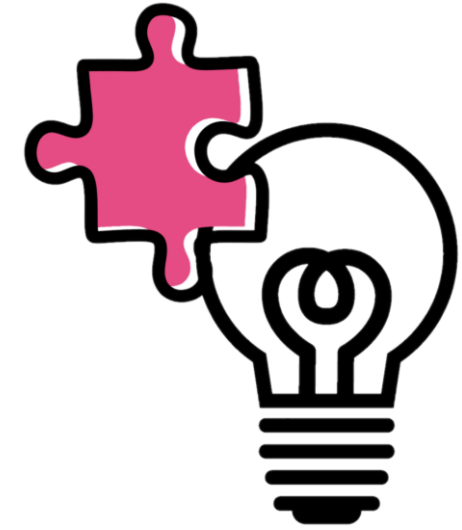
前回の復習

- ペアレント・トレーニングは、子どもの良い行動に注目しながら、親子のより良い関わり方について学ぶものです。
- 子どもの発達の特徴を理解し、まず子どもの行動をよく観察することが大切です。
- 自分と子どもの関わりを具体的なエピソードで思い出して、「私」と「子ども」の良い行動を具体的に見つけていきましょう。

子どもの良いところ探し（1週間）

- 最近1週間くらいのお子さんの様子を振り返って、「良かったところ」「頑張っていたところ」「嬉しかったところ」を探してください。
- なるべく具体的に、「どんな場面で」「どんな行動や言葉が良かったのか」を思い出してみてください。
- エピソードを発表してみましょう。

子どもの「行動を観察する」ことが大切な理由



- 子どもの行動は、それだけが突然起こるものではありません。
- 必ず行動を起こす「きっかけ」があり、その「結果」があります。
- 今日は、「行動を観察する」ことについて学んでいきましょう。

「行動」とは…

- 見たり聞いたりして教えられる「具体的な活動」のことです。

- 例題を具体的に言いかえてみましょう。

具体的な
場面は？

(例1) 弟に優しくできない：

(例2) ちゃんと宿題をしなさい：

「ちゃんと」
って何？

⇒何が問題になっているかを「明らかにすること」が大切です。

子どもの行動を観察するポイント

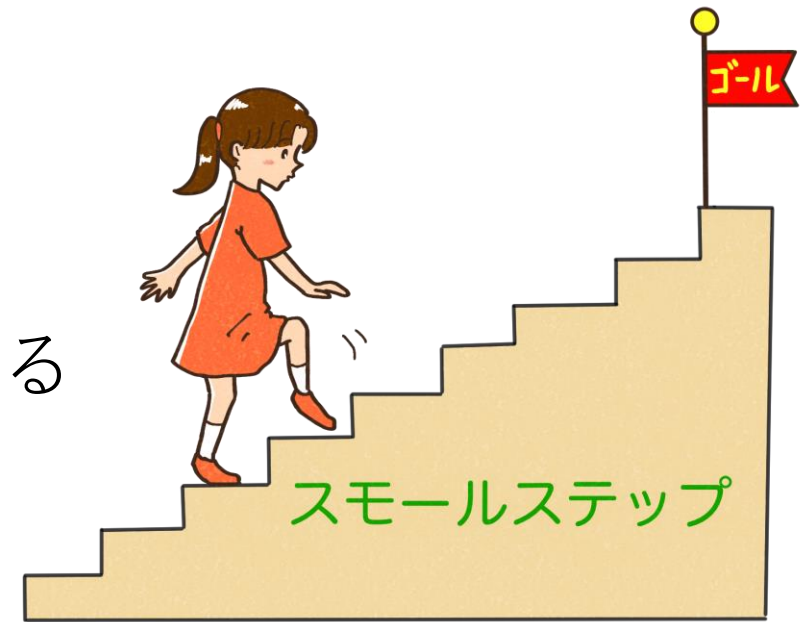


- 行動が起こった時の状況
- 行動への対応の結果「どうなったか」
- 問題となっている行動の持続時間、頻度、程度、それによる本人や周囲への影響の強さ

⇒子どもの行動を客観的に整理して書く練習をしていくと、関わりが適切だったかどうかの確認、その結果や意味の振り返りができます。子どもの行動が予測できると対応しやすくなります。

子どもの行動が改善されるためのポイント

- ①今できることから「具体的に」「スモールステップ」で
- ②子どもの行動をまず冷静に「観察」する
- ③子どもの特性に合わせて「環境設定」する



考えてみよう💡「レストランで退屈になり騒ぐ」行動

A 状況・きっかけ

レストランでの外食
・待ち時間が長い
・何もすることがなく退屈

B 行動

通路で
大声ではしゃぐ

C 結果・関わり

「静かに待ってて！」と
ガチャガチャを買って
もらえる

事前にどんな工夫ができそう？

- ・本やゲームを持参する
- ・事前にどう過ごすかを約束
- ・お店のルールをわかりやすく説明しておく

好ましい子どもの姿は？ 身に付けさせたい行動は？

時間まで静かに待つことができる

行動の後にどんな対応をする？

- ・待てたことを褒める
- ・ご褒美にデザートを食べても良いと伝える
- ・帰宅後に本人の好きなスペシャルタイムを持つ

子どもの好ましい行動に注目する

- 叱られていても「注目」されることが子どもにとっては『嬉しい結果』になっている場合もあります。(ネガティブな注目)
- 当たり前なのすかな頑張りにも「良い注目」をしましょう。
- 「してほしくないことをしていない時 = 望ましい状態の時」
です。見逃さないこと💡

子どもの行動を観察して、3つのタイプに分けてみよう

①好ましい行動（増やしたい行動）

⇒＜褒める＞すぐに、具体的に、気持ちをこめて

（例）おもちゃを「かして」と言われたら、「いいよ」と言って渡す

②不適切な行動（減らしたい行動）

⇒＜環境を整え、注目を与えず、褒めるために待つ＞

（例）おもちゃを「かして」と言われて、「いや！」と言う

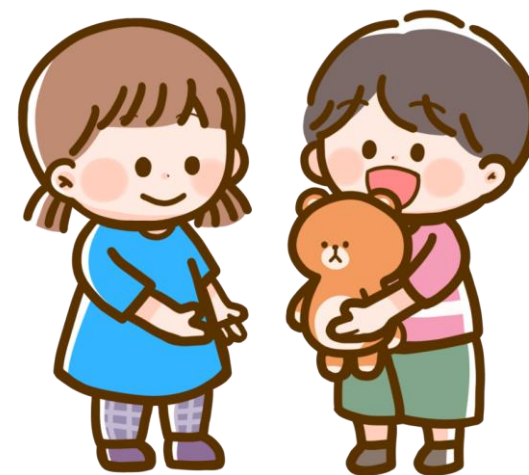
※先に子どもの気持ちを受け取ること

③許しがたい行動

⇒＜環境を整える＞予防が大前提

きっぱりと、さらりと、納得できるルールを提示

（例）おもちゃを「かして」と言われて、いきなり相手を突き飛ばす



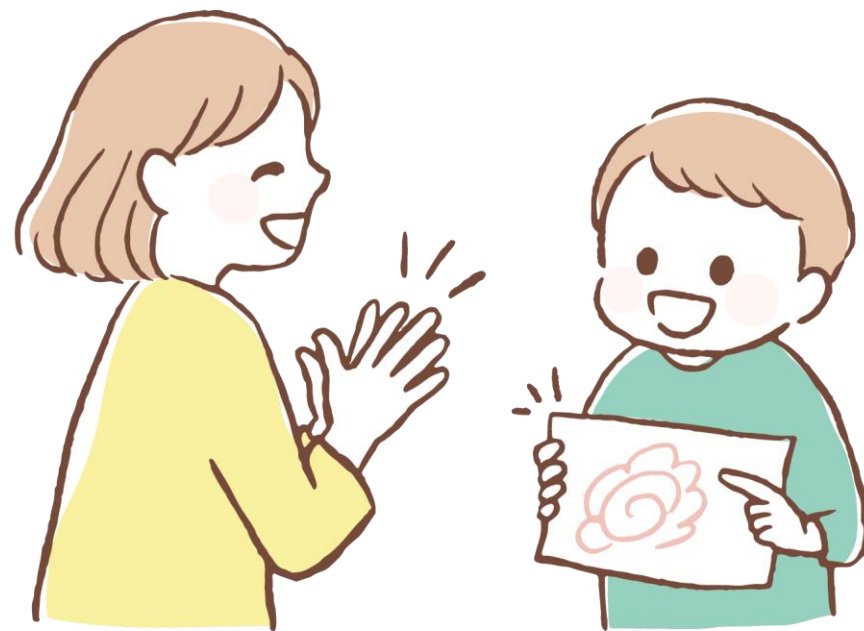
環境を整える & 褒めるパワー

- 問題となる行動が何か、その起こりやすい状況は何かを整理します。
- 感情的に怒るだけの対応では、怒られたことだけが残ってしまい、子どもは何をすればよいのかわかりません。
- 生活の中では当たり前のことであっても、子どもの良い行動に注目して、「褒めるパワー」を身に付けていきましょう。
- 『褒め上手』になるためには、少しのコツと練習が必要なのです。



休憩です

演習「褒め上手になろう」



ワークシートにチャレンジしてみましょう。

上手な褒め方のコツ

- 声のトーン、表情や視線、タイミング、距離
- 褒め言葉のバリエーション
- 具体的に褒める
- 過程を褒める
- 言葉以外に、子どもが嬉しい褒められ方は？
- 褒めたことで、子どもが喜んだり、またやってみようとしたりすれば、褒めたことが伝わった証拠
- プラスの注目も大切

褒めた後の
子どもを観察
してみよう👁👁

褒め方を練習しよう

- 2人ずつ、ペアになりましょう。
- 1人は子ども役、1人は親役です。
- 子ども役は、折り紙を折ります。



- 親役の人は、「上手な褒め方のコツ」を意識しながら、折り紙を折っている子ども役を褒めてあげましょう。

※役割を変更し、「うるさく指摘するVer.」もやってみて、グループ内で感想を言い合ってみましょう。

次回のお知らせ

- 次回は、2月17日（火）です。
- ホームワーク「行動の3つのタイプ分け」
「増やしたい行動」「減らしたい行動」「許しがたい行動」の3つに分けて、お子さんの行動を書き出してみましょう。
⇒次回、記入した『行動の3つのタイプ分けシート』をお持ちください。
- 次回のテーマ「子どもの行動のしくみを理解しよう」
- 演習「観察上手になろう」

ではまた次回、お待ちしております。

